

# 岐阜県リニア中央新幹線建設工事安全対策専門家会議（第2回）

## 議事要旨

1. 日 時：令和4年1月30日（日） 10：00～12：00
2. 開催方法：オンライン
3. 出席者
  - （1）委員 砂金委員、木村委員、進士委員、真下委員、水野委員
  - （2）岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会 神谷委員長
  - （3）事業者 JR東海 梅村担当部長、高見担当課長 ほか2名
  - （4）県 都市公園整備局長、リニア推進室長
4. 次第
  - （1）意見交換
  - （2）まとめ

### 5. 意見交換要旨

#### 〈危険区域への立入りの原因と対策〉

- ・立入り時の十分な切羽観察や、切羽監視責任者による常時監視のうえで立ち入るといふ手順が必要だったのではないか。
- ・トンネル施工時の切羽監視責任者と作業主任者の意思疎通について、十分になされていなかったのではないか。
- ・立入禁止範囲の考え方や誰が判断するのかについて、明確になっていなかったのではないか。

#### 〈肌落ちの要因と対策〉

- ・内空変位等のデータを参考にしながら、地山の安定性を判断するといふ手順が丁寧にされていなかったのではないか。
- ・計画変更（ベンチ長約3m→4.9mに伴う3間分ロックボルト未施工）は、JRと施工JVが事前に把握、判断に関与すべき事項であつたのではないか。

- ・切羽観察の結果と支保工選定への反映について、意思決定の仕組みが曖昧になっていたのではないか。

#### 〈事業者を含めたリスクマネジメント体制〉

- ・ J R、施工 J V、現場の役割分担や責任の所在について、はっきりしていなかったのではないか。
- ・ 事故は一人の責任で起こるものでなく、発注者から受注者まで全員が当事者意識を持つことが重要ではないか。
- ・ 相当因果関係のあるものについて十分拾い上げ、それにどう対応するか考えるリスクアセスメントの観点が重要ではないか。

#### 〈県内3トンネルにおける対応〉

- ・ 長野県伊那山地トンネル事故を受けた切羽監視強化策について、岐阜県内工区への取り入れを検討されるとよいのではないか。